

令和4年度 鶴岡市決算特集

令和4年度の 決算を報告します

令和4年度は、本市の最重要課題である少子化・人口減少対策に加え、新型コロナウイルス対策・物価高騰対策に係る各種施策を推進しました。

新型コロナウイルス対策・物価高騰対策では、引き続きワクチン接種の推進を図りながら、市民生活の支援や地域経済対策として、各種給付金や給食費の無償化等を含む62億円規模の支援施策を実施しました。

合わせて、将来の市政運営を見据えて財政構造の健全化にも取り組んだ結果、普通会計の実質単年度収支は3億円と、4年連続で黒字を確保しました。

また、2年連続で財政調整基金及び減債基金を取り崩すことなく、財政運営を行えたことで、基金残高は1億円の増となったほか、市債残高も29億7千万円の減となり、将来の財政負担を大きく減らすことができました。

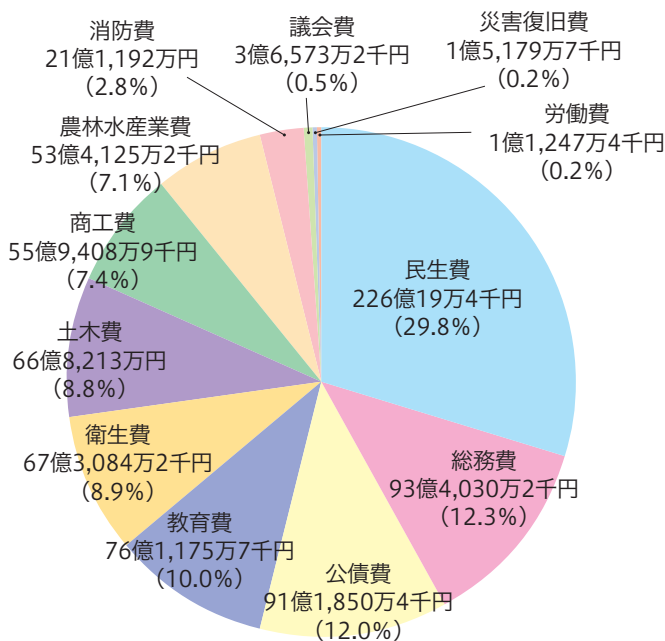
決算額は、歳入が19億2千万円の減、歳出が14億9千万円の減と、歳入・歳出ともに対前年比で大幅な減となりました。これは、3年度に実施した、国による子育て世帯や住民税非課税世帯等への臨時特別給付事業などの新型コロナウイルス対策事業の減等が大きな要因です。歳入歳出の主な増減の理由は2ページに記載しています。

普通会計歳出決算額

757億6,099万3千円

(対前年度 - 14億9,497万2千円)

歳出の内訳

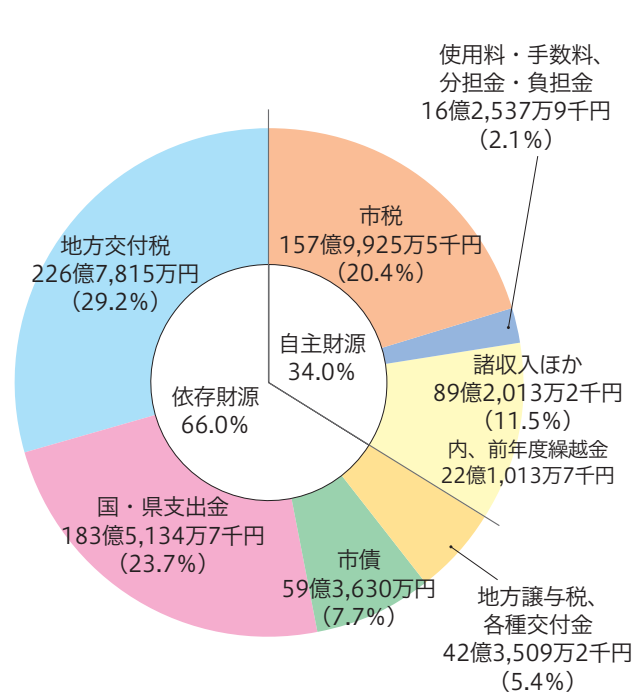


普通会計歳入決算額

775億4,565万5千円

(対前年度 - 19億2,044万7千円)

歳入の内訳



前年度と比べた主な増減の理由

歳出













- 義務的経費（支出が義務付けられているお金）
 - 扶助費（生活保護費や障害者等への援助費など福祉のためのお金）…19億4,611万1千円の減
 - 子育て世帯、住民税非課税世帯等への臨時特別給付金の減
 - 公債費…5億2,271万円の増
 - 一般廃棄物最終処分場整備事業等の元金償還額の増
- 投資的経費（道路や建物の建設など、社会資本として将来に残るものに使われるお金）
- 普通建設事業費（道路や学校等、公共施設の建設費など）…2億3,581万円の増
 - 朝陽五小改築事業、赤川2期地区かんがい排水事業の増

歳入

- 自主財源（市税などの自主的な収入）
 - 市税…4億9,428万4千円の増
 - 脱コロナ傾向や物価上昇等を背景とする、法人市民税や個人市民税、固定資産税の増
 - 依存財源（国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入）
 - 国庫支出金…16億6,647万5千円の減
 - 子育て世帯等臨時特別支援事業費補助金や廃棄物処理施設整備交付金の減
 - 市債…7億2,810万円の減
 - 臨時財政対策債や一般廃棄物最終処分場整備事業債の減





歳出額を市民1人あたりに換算すると

63万3千円／年間

民生費 福祉や保育などのためのお金  18万8,966円	総務費 課税・納税、職員管理、企画などのためのお金  7万8,097円	公債費 借金返済に充てるお金  7万6,242円
教育費 教育などのためのお金  6万3,644円	衛生費 健康増進やごみ処理などのためのお金  5万6,278円	土木費 道路や橋の建設などのためのお金  5万5,871円
商工費 商工業や観光の振興のためのお金  4万6,774円	農林水産業費 農林水産業の振興のためのお金  4万4,660円	消防費 消防や救急、救助活動などのためのお金  1万7,658円
議会費 市議会の運営のためのお金  3,058円	災害復旧費 自然災害の復旧工事のためのお金  1,269円	労働費 雇用対策などのためのお金  941円

歳入額を市民1人あたりに換算すると

64万8千円／年間

市税などの収入  17万9,732円	国からの収入  30万1,404円	
県からの収入  7万7,065円	市債(借入金)  4万9,635円	その他の収入 ・前年度繰越金 ・基金繰入金 ・寄附金 など 4万544円

- 市税…市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税など
- 使用料・手数料…市の施設の利用料、証明書発行手数料など
- 分担金・負担金…特定のサービスを受けた方が負担したお金
- 諸収入ほか…貸付金の元金収入など
- 地方交付税…所得税等の国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されたお金
- 国・県支出金…特定の事務・事業のための財源として、国や県から交付されたお金
- 市債…投資的経費等に充てるため、国や金融機関から借りたお金
- 地方譲与税…国が徴収した特定の税から配分されたお金
- 各種交付金…地方消費税交付金などの、国から配分されたお金

※令和5年3月31日現在の人口：119,599人で算出。

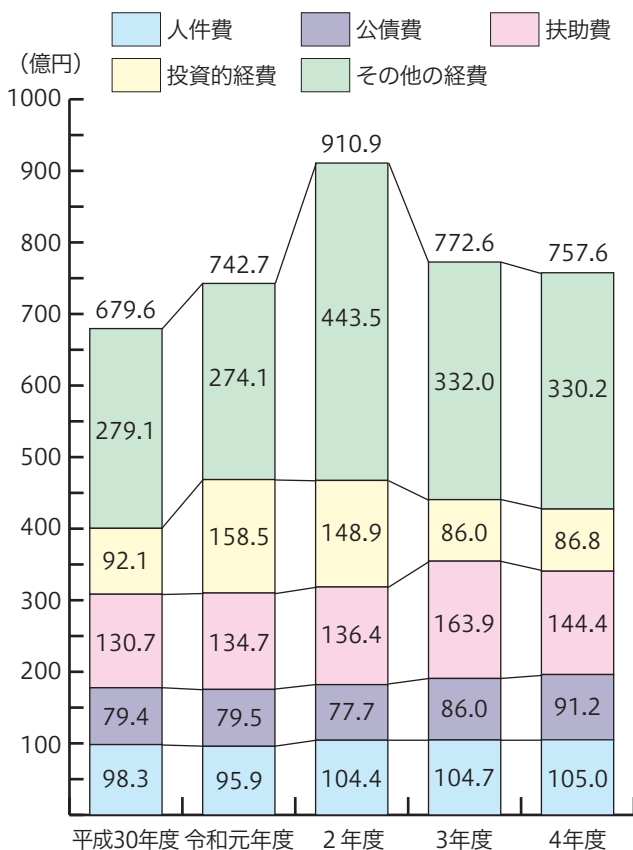
普通会計決算収支の状況

	令和4年度	令和3年度	増減
歳入決算額 ①	775億4,565万5千円	794億6,610万2千円	▲19億2,044万7千円
歳出決算額 ②	757億6,099万3千円	772億5,596万5千円	▲14億9,497万2千円
形式収支 ③=①-②	17億8,466万2千円	22億1,013万7千円	▲4億2,547万5千円
翌年度に 繰越すべき財源 ④	4,800万2千円	3,829万6千円	970万6千円
実質収支 ⑤=③-④	17億3,666万円	21億7,184万1千円	▲4億3,518万1千円
単年度収支 ⑥=⑤-⑤'	▲4億3,518万1千円	8億4,450万4千円	▲12億7,968万5千円
財政調整基金 積立金(★) ⑦	3億6,507万6千円	1億9,453万円	1億7,054万6千円
繰上償還金(★) ⑧	3億7,064万3千円	2億8,568万6千円	8,495万7千円
財政調整基金 取崩し額 ⑨	—	—	—
実質単年度収支 ⑩= ⑥+⑦+⑧-⑨	3億53万8千円	13億2,472万円	▲10億2,418万2千円

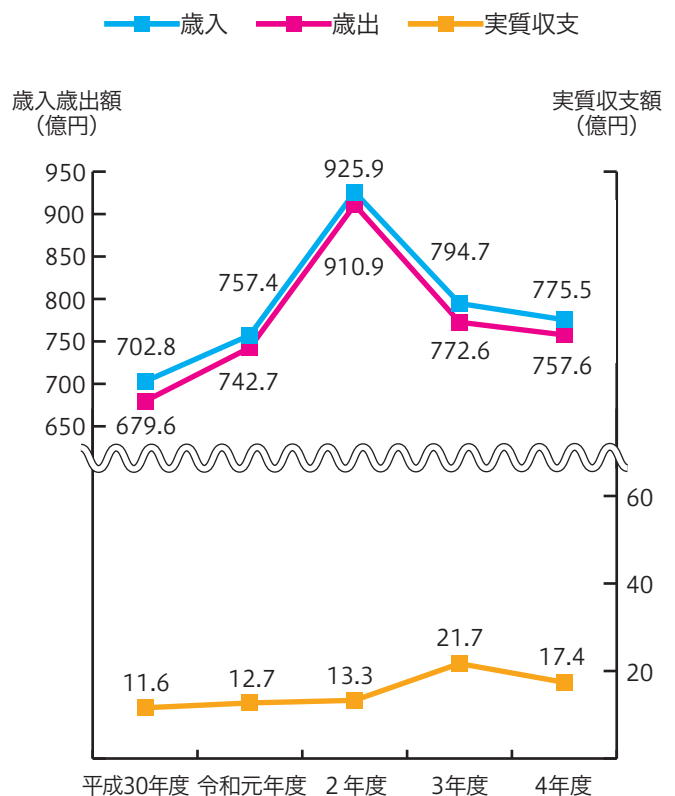
令和4年度の歳入は、市税やふるさと寄附金が増収となりました。また、経費節減など歳出抑制の効果も現れ、実質単年度収支は前年度と同様に黒字となりました。引き続き、歳入と歳出のバランスを保ち財政の健全化に努めます。

- ⑤'…前年度の実質収支
- ★財政調整基金
4ページの用語の解説参照
- ★繰上償還金
今後の財政負担の軽減を目的に、後年度に返済予定の市債の元金を前倒して返済するもの

普通会計の性質別歳出額の推移



普通会計の歳入歳出額と実質収支額の推移



貯金

鶴岡市の貯金額は？

積立基金(貯金)の総額
175億8,655万6千円
(対前年度 +9,895万2千円)

市民1人当たり
14万7千円

積立基金の状況 (種類と年度末残高)

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	
財政調整基金	44億8,102万円	46億7,555万円	50億4,063万円	
減債基金	40億8,453万円	41億98万円	42億9,975万円	
その他の特定目的基金	地域振興基金	30億4,000万円	30億4,000万円	29億円
	公共施設整備基金	27億7,269万円	27億869万円	25億5,316万円
	加茂水族館整備振興基金	13億4,288万円	12億4,500万円	12億4,108万円
	緊急経済対策金融支援基金	6億1,200万円	4億804万円	3億7,474万円
	地域まちづくり未来基金	5億3,211万円	5億4,297万円	5億7,576万円
	その他	6億9,443万円	7億6,637万円	6億144万円
小計	89億9,411万円	87億1,107万円	82億4,618万円	
合計	175億5,966万円	174億8,760万円	175億8,656万円	

用語の解説

財政調整基金 年度間の財源の不均衡を調整するための基金。経済不況等による大幅な税収減や、災害の発生等による支出の増加などへの備えとして積み立てている

減債基金 地方債の償還及びその信用維持のために設置する基金。公債費の償還を計画的に行うために積み立てている

地域振興基金 合併市町村が地域住民の一体感醸成や地域振興を目的に設置する基金

緊急経済対策金融支援基金 新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策に係る利子補給等に必要な財源を確保する基金

財政健全化判断比率等

将来の財政を圧迫する可能性についての指標です。実質公債費比率の対象となつている公債費等に加え、第三セクターの負債の内、市が損失補償や債務保証をしているもので経営状況等に応じて見込んだ負債額を合算した将来負担額が、標準財政規模に占める割合を指します。

4年度は、公営企業債残高の減少などにより、対前年度で4・0ポイント低下して40・8%になりました。この水準は、早期健全化基準350%を大きく下回っていることから、将来の財政運営に支障を来す状況ではないと判断されます。

4年度は6・7%で、対前年度で0・6ポイント上昇しました。

○**将来負担比率**

将来の財政を圧迫する可能性についての指標です。実質公債費比率の対象となつている公債費等に加え、第三セクターの負債の内、市が損失補償や債務保証をしているもので経営状況等に応じて見込んだ負債額を合算した将来負担額が、標準財政規模(★)に占める割合を指します。

○実質公債費比率

地方公共団体の資金繰りの危険度を示す指標です。公債費のほかに公営企業債に対する繰出金や一部事務組合の公債費に対する負担金等を含めた実質的な公債費相当額が、標準財政規模(★)に占める割合を指します。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、財政の健全化に関する比率を公表しています。

各比率が基準を超えた場合、財政健全化計画の策定等が義務付けられます。

鶴岡市の状況は表のとおりです。

財政健全化判断比率等

単位：%

指標	指標の意味	鶴岡市の数値	早期健全化基準(黄色信号)	財政再生基準(赤信号)
財政健全化判断比率	実質赤字比率	- ※1 (-)	11.46 (11.45)	20.00
	連結実質赤字比率	- ※2 (-)	16.46 (16.45)	30.00
	実質公債費比率	6.7 (6.1)	25.0	35.0
	将来負担比率	40.8 (44.8)	350.0	
資金不足比率(公営企業会計ごと)	公営企業ごとの経営状況の深刻度を示す指標	- ※3	経営健全化基準 20.00	

()内は3年度の数値

※1…本市の普通会計で実質赤字額は生じていない。

※2…本市の一般会計、特別会計等の全体で実質赤字額は生じていない。

※3…本市の全ての公営企業会計で資金不足額は生じていない。

★**標準財政規模** その地方公共団体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示すもので、通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安

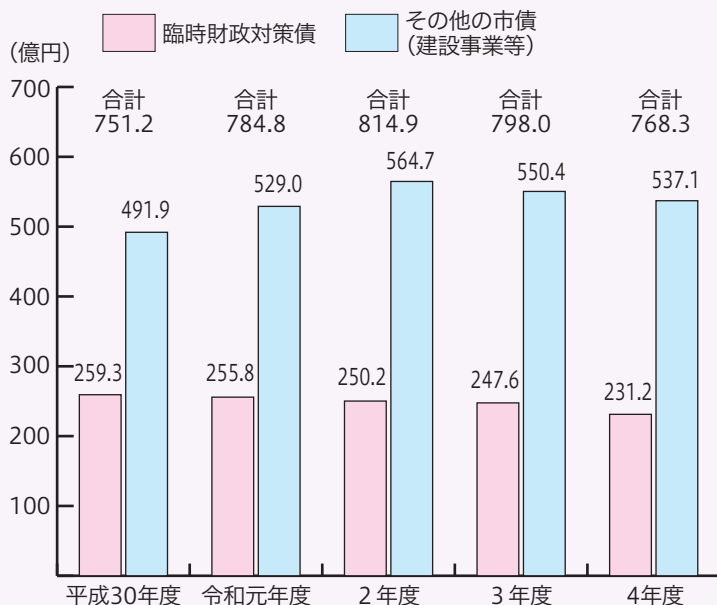
借金

鶴岡市の借金額は？

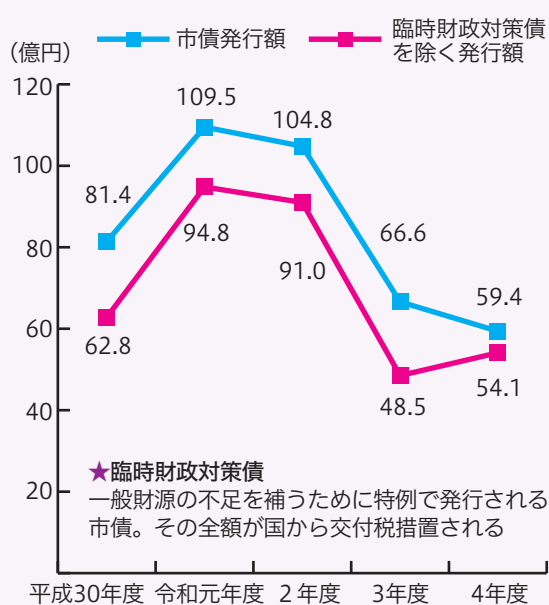
市債(借金)残高の総額
768億2,773万8千円
(対前年度 -29億7,087万6千円)

市民1人当たり
64万2千円

市債残高の推移



市債発行額の推移



特別会計と企業会計の決算

特別会計 特定の事業を特定の収入で賄う会計。収支を明確にするため一般会計とは経理を別にします。

会計名等	歳入決算額	歳出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
国民健康保険特別会計(事業勘定)	141億3,272万円	122億5,603万円	7億9,877万円	国民健康保険の円滑な運営
国民健康保険特別会計(直診勘定)	4,032万円	4,014万円	2,520万円	上田沢・大網診療所の運営
後期高齢者医療保険特別会計	17億2,022万円	17億1,689万円	4億9,037万円	後期高齢者医療保険の円滑な運営
介護保険特別会計	171億7,126万円	159億4,884万円	21億8,483万円	介護保険の円滑な運営
休日夜間診療所特別会計	5,121万円	5,099万円	3,582万円	休日夜間・休日歯科診療所の運営
墓園事業特別会計	1,672万円	358万円	-	鶴岡墓園等の管理運営

企業会計 民間企業と同様に、事業の収益によって運営している会計。地方公共団体が経営する企業を「地方公営企業」と言い、本市では病院、水道、下水道の3つの企業会計を設けています。

会計名等	収入決算額	支出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容	
病院事業	収益的収支	150億9,126万円	143億2,342万円	10億8,803万円	病院事業の運営
	資本的収支	25億2,488万円	30億4,686万円	9億6,564万円	病院施設の整備等
水道事業	収益的収支	33億3,867万円	30億459万円	1,846万円	水道事業の運営
	資本的収支	6,228万円	12億5,749万円	2,161万円	水道施設の整備等
下水道事業	収益的収支	51億6,022万円	51億4,506万円	10億8,610万円	下水道事業の運営
	資本的収支	44億1,161万円	65億3,421万円	14億3,224万円	下水道施設の整備等

特別会計と企業会計の事業は営利目的ではなく公益的であるため、収入が不足する場合は一般会計からの繰出金を受けて運営しています。

第2次鶴岡市総合計画の実現に向け様々な事業を実施しました。
令和4年度に実施した事業の一部を写真で紹介します。



先端研究産業支援センターF棟整備事業

鶴岡サイエンスパーク内では、ベンチャー企業や研究機関が集積し、先端バイオを核とした研究教育活動が行われています。この活動を支援し、研究環境の基盤作りを推進するため、満室状態が続いていた先端研究産業支援センターに新たなレンタルラボ棟（F棟）を整備しました。



酒井家庄内入部400年記念事業

酒井家庄内入部400年の節目となった令和4年。記念式典や庄内ミュージアムスタンプラリー、子ども記者プロジェクト等を通じ、地域の歴史文化を見つめ直すことで、シビックプライドや地域愛の醸成を図りました。さらに、各種イベントでは、にぎわい創出のための観光誘客も推進しました。



国立がん研究センター東病院との遠隔アシスト手術開始

庄内病院で行うがん手術を、千葉県柏市の国立がん研究センター東病院の医師が、実際の執刀医を遠隔地からオンラインで支援する「遠隔アシスト手術」。庄内病院の患者が地方にいながら、より高度な手術を受けられるとともに、若手医師の技能向上につながることも期待されます。



女性センター開館40周年記念事業

昭和女子大学理事長・総長の坂東真理子氏を講師に迎え記念講演会を開催しました。無意識の偏見を自覚し自分の良さを見つけ、新しいことにチャレンジする重要性など、人生100年時代の女性の生き方について語りました。



災害時避難システム構築事業

災害に関する情報を、市ホームページや各種SNS、緊急速報メール等の各媒体で速やかに配信するとともに、正確で確実な情報提供を目的として、災害情報一元配信システムを導入しました。



つるおか伝統菓子伝承事業

国無形民俗文化財の登録を見据え、専門家による「鶴岡雑菓子・笹巻・とちもち」の歴史現状調査やシンポジウムを開催。また、文化庁による食文化の継承・振興への機運醸成を図る取り組み「100年フード」に、「笹巻」が認定されました。

令和4年度に実施した主な事業



斎小学校体育館改築事業

改築した斎小学校の体育館が令和4年8月に竣工し、学習発表会と併せて竣工式が行われました。新しい体育館は市内の小・中学校では初めて昇降式緞帳を採用したほか、床を高くすることで段差を解消し、利便性を向上しつつ、安全に利用できる施設になりました。



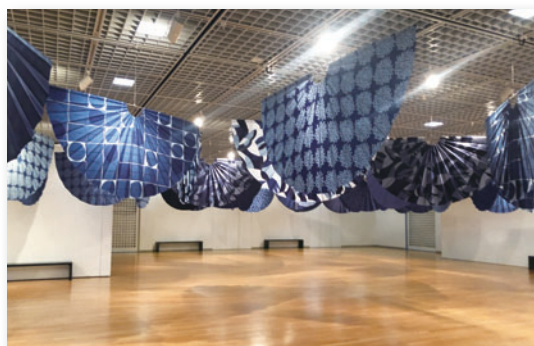
新生児聴覚検査助成事業

生まれつき耳の聞こえにくさがある赤ちゃんは、1,000人に1人～2人とされています。そういった赤ちゃんを早期に発見し、適切な援助を受けられるよう、新生児聴覚検査費用の一部を助成することで、経済的負担軽減に努めています。



つるおかうち御膳改訂

平成22年制作の郷土料理レシピ集「つるおかうち御膳」を12年ぶりに改訂。家庭での郷土料理の伝承に向けて婚姻世帯に概要版を配布しました。また、改訂に合わせた郷土料理教室を9回実施し、延べ133人の市民が参加しました。



酒井家庄内入部400年記念 鶴岡シルク特別企画展

日本を代表するテキスタイルデザイナーの須藤玲子氏（NUNO）と、林登志也氏・鶴岡市出身の安藤北斗氏（we+）による本展覧会では、酒井忠勝の肖像画の着衣の藍色から着想を得た青色の、「すえひろがり」な扇が空間を彩りました。



図書館ナイトツアー

小学生を対象とした図書館体験事業。図書館を閉館した後、ふだんは利用者が入ることのできない閉架書庫を含めて、館内を案内しました。さらに、自分が借りる本を自分で貸出し処理ができる司書体験を実施しました。



コミュニティセンター改修事業

老朽化が進んだコミュニティセンターの長寿命化を図るため、屋根や外壁の修繕、トイレの洋式化、空調の整備などを行う改修工事を計画的に実施しています。令和4年度は、上郷コミュニティセンターの改修工事を実施しました。

令和4年度に各地域の特性を生かして実施した事業を紹介します。

〈鶴岡地域〉



鶴岡地域まちづくり未来事業

小堅地区では、地域ビジョンに掲げる将来像「子ども・子育て世代が住みたくなる小堅地区」を目指し、多世代交流施設「小堅ランド」の安全確保整備事業に取り組みました。SNS等を活用し、地域外への魅力発信も行いました。

〈藤島地域〉



農の魅力拡大事業

若手農業者の応援と、鶴岡産米のPRを図るため、米の食味コンテスト「鶴岡ごはん日本一」を開催しました。ふじしま秋まつり会場内で決勝審査を実施し、実際に食べ比べをして最優秀賞米を決定しました。

〈羽黒地域〉



松ヶ岡魅力創出支援事業

酒井家庄内入部400年を記念し、松ヶ岡開墾場で松ヶ岡クラフトフェスを開催しました。歴史文化薫る蚕室の雰囲気に触れながら、多彩な分野のこだわりの作品を楽しむ来場者でにぎわいを見せました。

〈櫛引地域〉



くしびき温泉ゆ〜Town活性化事業

ゆ〜Townに新たな魅力等を付加するイメージアップ事業として、オリジナルキャラクター「ゆ〜たん」を作製。情報発信やオリジナルグッズを使用した誘客に活用しました。また、親子ヨガなどの健康増進事業も行いました。

〈朝日地域〉



大鳥自然の家環境整備事業

地域資源を生かした環境教育プログラムとして、ナメコの菌植えや収穫体験を行いました。環境教育体験の機会を増やすことで、地域資源の豊かさへの気付きや愛郷心の醸成につなげていきます。

〈温海地域〉



温海地域在来作物振興事業

平成28年に、そばでは県内3例目の在来作物と確認された「越沢三角そば」。ブランド化と販路拡大、さらには温海地域の交流人口の増加を目的に、首都圏等でプロモーション活動などを行いました。

今後の財政運営

○安定的な収入を増やす取り組み

歳入は、国・県の交付金や市債等の依存財源に頼っています。安定的な収入となる自主財源の確保に向けて、税源の安定的確保、市税等の収納率の向上、受益者負担の適正化を一層図る必要があります。また、ふるさと寄附金の増収に努めます。

○歳出を減らす取り組み

総合計画に基づく施策を着実に推進する一方で、事務事業の見直しやデジタル技術を活用した業務の効率化等による経常経費の削減を一層進めるとともに、公共施設等の今後の在り方やニーズ、適正な優先度の検討を踏まえて投資事業の実施に努めていく必要があります。

○基金の活用

合併特例期間中に将来の財政負担に備えて、基金の充実に努めてきました。安定的な財政運営のために財政調整基金など各種基金の適切な水準維持に努めながら、有効に活用していきます。

○最後に

今後も原油価格・物価高騰などでの社会経済活動の変化による本市財政への影響も考慮しながら、より一層の財政健全化に努めるとともに、安全・安心な市民生活の維持向上のために必要な各種施策に着実に取り組んでいきます。

鶴岡市の財政・決算及びこの特集についての問合せは
本所財政課 ☎25 - 2111内線332、
✉ zaisei@city.tsuruoka.lg.jp へ

広報つるおか特集号
編集・発行／鶴岡市総務部総務課
〒997 - 8601 山形県鶴岡市馬場町9 - 25
ホームページ <https://www.city.tsuruoka.lg.jp>



環境に配慮し植物油インキを使用しています